



夢は前立腺肥大症の日帰り手術を 当たり前のものに

2014年7月取材

神奈川県平塚市
かとう腎・泌尿器科クリニック 院長
加藤 忍 先生

大学病院や中核病院等で泌尿器疾患の手術を数多く手掛けてきた加藤忍先生は、2013年、かとう腎・泌尿器科クリニックの開業にあたり、入院手術が一般的な前立腺肥大症において、患者さんの負担を減らせる日帰り手術の導入を決意しました。同クリニックでは、高度なレーザー機器を整備し、必ず麻酔科専門医と共に手術を行う治療体制を構築しています。

日帰り手術を実現する確かなフォロー

加藤先生は、勤務医時代から現在に至るまで、ホルミウムレーザーを利用する前立腺肥大症の手術(HoLEP手術)を1,000例以上も行っていきます。従来の手術法より低侵襲である点が特長です。しかし、それだけでは安全な日帰り手術は実現しません。「朝7時から手術を行い、患者さんには夕方までリカバリールームで休んでいただきます。早期の手術によって術後の経過を観察する時間を十分に確保でき、日帰り手術が可能となりました」。また、手術に集中できるように、術中の麻酔管理は必ず麻酔科専門医が行います。さらに、手術当日の夜には必ず患者さんに電話をして様子を確認する他、24時間対応可能な携帯電話の番号を教えているそうです。同クリニックの日帰り手術は、高い技術と安全性の確保に加え、先生の確かなフォローによって実現しているのです。



加藤先生の評判を聞き、関東全域に加え、東北地方や中国地方からも患者さんが来院します。

現状に満足せず、次の技術を開発する



ホルミウムレーザー(右)とダイオードレーザー(左)が、同クリニックの日帰り手術を支えます。

日本でホルミウムレーザー手術がほとんど知られていなかった2000年頃に取り組み始め、同分野の第一人者として知られる加藤先生ですが、現状に安住せず、患者さんへの負荷がより少ない新技術の追求を続けています。その一つがドイツ製の機器「ダイオードレーザー」の採用です。「ダイオードレーザーでは、ホルミウムレーザーと比較し、さらに出血が少なく、より短時間で前立腺肥大症の手術が可能となります」。この先端技術を普及させるため試験に協力し、同クリニックは300Wダイオードレーザー手術において国内最多の症例数を誇っているそうです。また、加藤先生は海外まで新しいレーザー手術の研修に出掛けます。「私の夢の一つは、前立腺肥大症の手術を日帰り当たり前のものにする事です。患者さんの負担軽減はもちろんですが、逼迫(ひっばく)する医療財政問題の解消のためにも、入院より費用の安い日帰り手術へのニーズは必ず高まるはずですよ」。

調子が悪いのは年齢ではなく疾患のせい

最新の技術を駆使しつつ、加藤先生は患者さんの話に丁寧に耳を傾ける問診も重視します。泌尿器科の受診に抵抗を感じる患者さんは多く、「意を決して来た」と話す方もいるそうです。そうした患者さんが診療の終わりに「受診して良かった」と言ってくれるのが何よりもうれしいと先生は話します。一方で、人々が泌尿器疾患に対して抱く誤解を危惧しています。「しばしば、高齢の方の『排尿トラブルの原因は年のせいだ』といった声を耳にしますが、加齢だけで排尿の調子が悪くなることは減多にありません。泌尿器疾患があるから問題が生じているのです」。治療を受けることでQOLが大幅に改善する喜びを多くの方に経験してもらうべく、加藤先生は機会を見つけては講演を行い、泌尿器疾患の啓発活動に取り組んでいます。



前立腺肥大症の患者さんは先生より目上の方が多いので、失礼のないよう意識して診療にあたっているそうです。